

平成 18 年 2 月 14 日

関係者各位

大和インベスター・リレーションズ株式会社
〒100-8289 東京都千代田区丸の内 1-8-1
Tel 03-3283-7000(代表) Fax 03-3283-7077

アナリスト・ファンドマネージャー94人のアンケート

「社会的責任投資 (SRI) の日本企業への影響」の調査結果から

- **社会的責任投資 (SRI) ・企業の社会的責任 (CSR) の認知度、ほぼ 100%に**
認知度は双方とも 97%となり、市場に広く浸透。
職種別では、ファンドマネージャー・バイサイドアナリスト (100%)、セルサイドアナリスト (93%)
- **セルサイドアナリストへの SRI の影響は 2 年足らずで 2.5 倍、バイサイドアナリスト・ファンドマネージャーへの影響は、同 1.7 倍へ**
セルサイドアナリストの業務への SRI の影響は、第 3 回調査 (04 年 4 月) の 13.2%から 33.3%へ。
ファンドマネージャー・バイサイドアナリストへの影響は、同 22.2%から 37.8%へ。
- **「SRI は普及する」が全体の 64%、同 3.3 ポイント増**
セルサイドアナリストの 57.1%、ファンドマネージャー・バイサイドアナリストの 70.3%が普及と回答。

企業の社会的責任 (CSR: Corporate Social Responsibility) が注目されています。CSR への取り組みを投資基準にする SRI (Socially Responsible Investment: 社会的責任投資) ファンドは、2005 年 6 月 30 日現在、日本国内に約 20 種類あり、純資産額は約 1,300 億円強です。先行する米国では、2003 年にはファンド数で 200、総資産運用残高が約 1,620 億ドル (約 18 兆円) に達しています。日本でも大手投信会社が SRI ファンドを設定するなど、動きが定着してきています。

大和証券グループの IR (投資家向け広報) コンサルティング会社である大和インベスター・リレーションズ株式会社 (社長・宮田長吉) は、「社会的責任投資 (SRI)」の日本企業への影響について、2006 年 1 月 4 日～1 月 16 日、日本国内の主要な日系・外資系証券会社調査部門及び機関投資家 94 名 (ファンドマネージャー 16 名、バイサイドアナリスト 21 名、セルサイドアナリスト 42 名、その他 15 名) からアンケートの回答を得ました。前回 (2004 年 12 月) に続いて 5 回目の調査です。

今回の調査概要は以下のとおりです。

- ・SRI、CSR の認知度は、双方とも 96.8%。それぞれ第 3 回から 4.2 ポイント、6.7 ポイント向上。
- ・SRI の中で一番関心の高い項目は、「ガバナンス、アカウンタビリティ (法令順守、情報開示等)」。
- ・SRI で、一番分かりにくい、なじみにくいのは、「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」。
- ・SRI が及ぼす、レポート作成や投資銘柄選択への影響について、全体の 34.1%が「影響している」と答えており、第 3 回調査 (2004 年 4 月) の 21.0%の 1.6 倍へ。セルサイドアナリストは、同 2.5 倍の 33.3%、バイサイドアナリスト・ファンドマネージャーは 1.7 倍の 37.8%が影響ありと回答。
- ・SRI インデックスの認知度は横ばい。「DJSI」と「MS-SRI」の認知度が同率の 1 位。
- ・SRI の判断材料として重視するのは「取材、インタビュー」が 50.6%、「環境報告書」41.2%、「CSR 報告

書」38.8%、「インターネットホームページ」27.1%、前回項目に加えた「CSR 報告書」が 10.4 ポイント上昇して 2 位の「環境報告書」に肉迫。

- 日本での SRI について、全体の 63.8%が普及すると回答。第 3 回調査の 60.5%から 3.3 ポイント増加。普及しないは 30.9%で同 1.2 ポイント低下。セルサイドアナリストは 57.1% (同-0.8)、ファンドマネージャー・バイサイドアナリストは 70.3% (同+9.2)が普及すると回答。

大和 IR は、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループにあつて、上場・未上場企業の投資家向け広報(IR)に優れたノウハウを持ち、専門性の高いプロフェッショナルなサービスで実績を築き、コーポレート・ストーリーの構築からIR活動のアドバイザーまで、IRの幅広いサポートを行なっています。

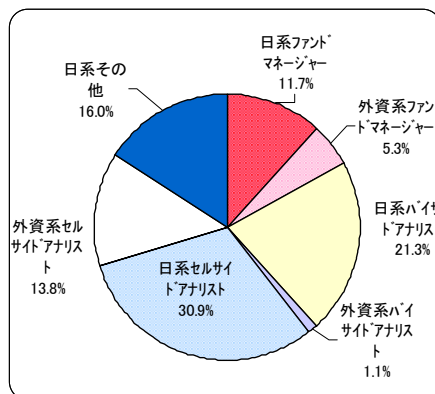
大和 IR では、企業のディスクロージャー活動を今後とも支援してまいります。

以 上

【お問合せ先】 大和インベスター・リレーションズ株式会社
理事 業務推進担当 ・米山徹幸
業務推進部上席次長・石橋卓磨
T e l 03-3283-7000 F a x 03-3283-7077

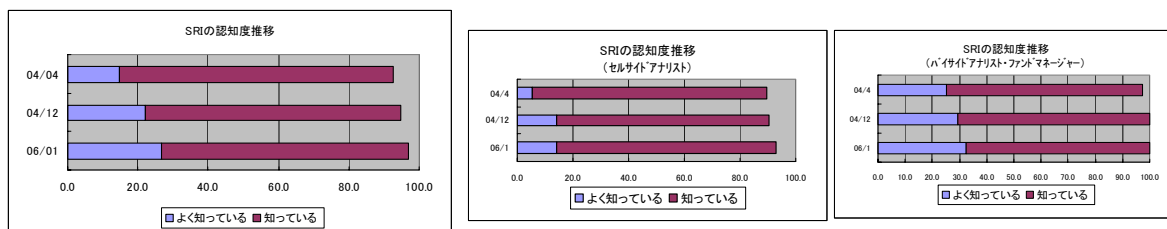
調査期間:2006年1月4日～1月16日

有効回答者数:94名(ファンドマネージャー16名、バイサイドアナリスト21名、セルサイドアナリスト42名、その他15名)



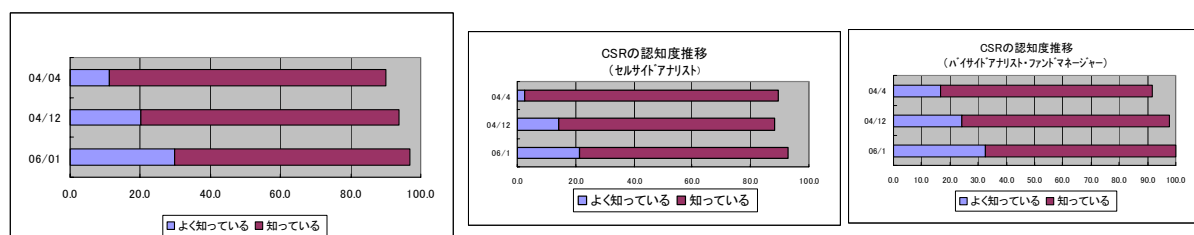
1 社会的責任投資(SRI)の認知度

- ① SRIの認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」、「知っている」を合わせて96.8%と、第3回調査(04年4月)と比較して4.2ポイント上昇、ほぼ100%に近づいた。
- ② 職種別では、セルサイドアナリスト(以下:セルサイド)は「よく知っている」(14.3%)、「知っている」(78.6%)合計で認知度92.9%となり、同3.4ポイント増。バイサイドアナリスト・ファンドマネージャー(以下:バイサイド)は「よく知っている」(32.4%)、「知っている」(67.6%)合計で認知度100%。セルサイドの認知度も急速にアップしてきている。

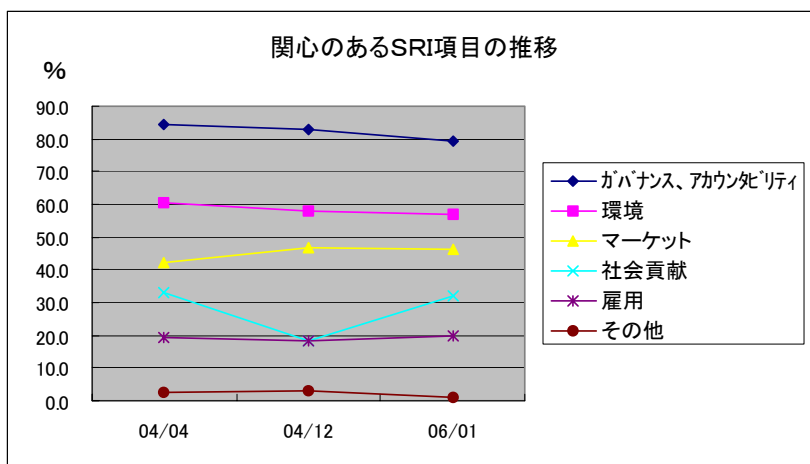


2 企業の社会的責任(CSR)の認知度

- ① CSRの認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」(29.8%)、「知っている」(67.0%)を合わせて認知度96.8%と、第3回調査90.1%を6.7ポイント上回り、関心の高さをうかがわせた。
- ② 職種別では、セルサイドは「よく知っている」(21.4%)、「知っている」(71.4%)の合計92.8%となり、同3.4ポイント増。バイサイドは「よく知っている」(32.4%)、「知っている」(67.6%)の合計100%、同8.3ポイント増加している。



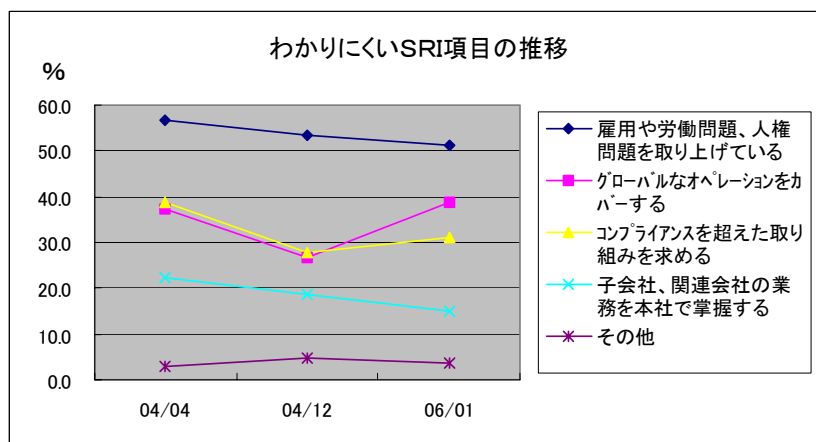
3 関心の高いSRI項目(複数回答)



代表的なSRIの5項目についてどれに関心があるかをたずねた。

全体で1位は「ガバナンス、アカウントビリティ(法令順守、情報開示等)」が79.1%(第3回調査比-5.5ポイント)と減少、2位は「環境(環境リスクの低減、環境汚染物質対策等)」が57.1%(同-3.2)、3位は「マーケット(消費者対応、取引先対応、顧客満足、調達方針等)」が46.2%(同+3.9)、続いて「社会貢献(地域社会への貢献、NGOとの協働等)」31.9%(同-1.4)、「雇用(雇用関係、人材育成、基本的人権の保護等)」19.8%(同+0.6)となった。

4 SRIの考え方で、分かりにくい、なじみにくい項目(複数回答)



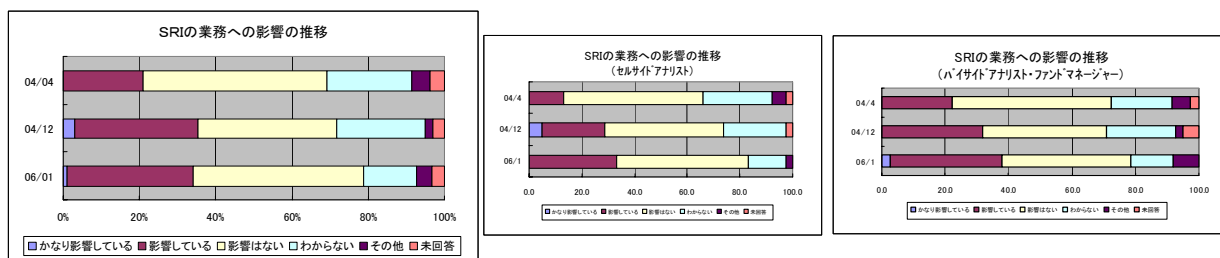
- ① 全体で1位は「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」が51.3%(第3回調査比-5.5ポイント)、2位は「グローバルなオペレーションをカバーする」38.8%(同+1.5)、3位が「コンプライアンスを超えた取組みを求める」が31.3%(同-7.6)、以下「子会社・関連会社の業務を本社で掌握する」15.0%(同-7.4)、「その他」3.8%(同+0.8)となった。

- ② その他、「社会貢献を価格に転嫁すること(外資系ファンドマネージャー)」とのコメントがあった。

5 SRIの考え方が、業務に影響を及ぼしているか

- ① 全体で、「かなり影響している」(1.1%)、「影響している」(33.0%)、両方を合計した34.1%(第3回調査比1.6倍)が業務になんらかの影響がでていると回答している。「影響はない」は同48.1%から44.7%に3.4ポイント減少した。

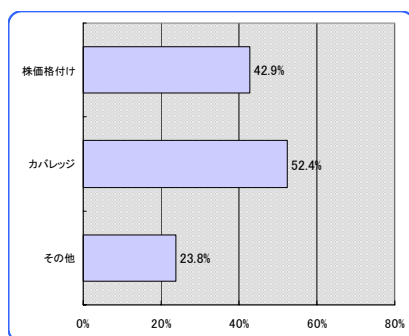
- ② 職種別では、セルサイドの33.3% (同2.5倍)、バイサイドの37.8% (同1.7倍)が業務に影響があると回答しており、2年足らずでSRIの影響度は大幅に増加している。



- 6 5で影響が出ていると回答したセルサイド・バイサイドアナリストの内、21名が具体的な影響を3つの項目の中から選択 (複数回答)

「カバレッジ」52.4% (第3回調査比+19.1ポイント)、「株価格付け」42.9% (同-1.5)、「その他」23.8% (同-9.5)。カバレッジへの影響は大きくなっており、株価格付けに対する影響度は若干低下している。その他には「活用方法の検討段階 (日系バイサイドアナリスト、情報通信、商社)」、「調査項目の増加 (日系バイサイドアナリスト)」とのコメントがあった。

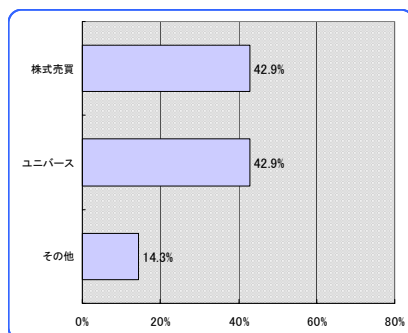
(N=21)



- 7 5で影響が出ていると回答したファンドマネージャーの内、7名が具体的な影響を3つの項目の中から選択 (複数回答)

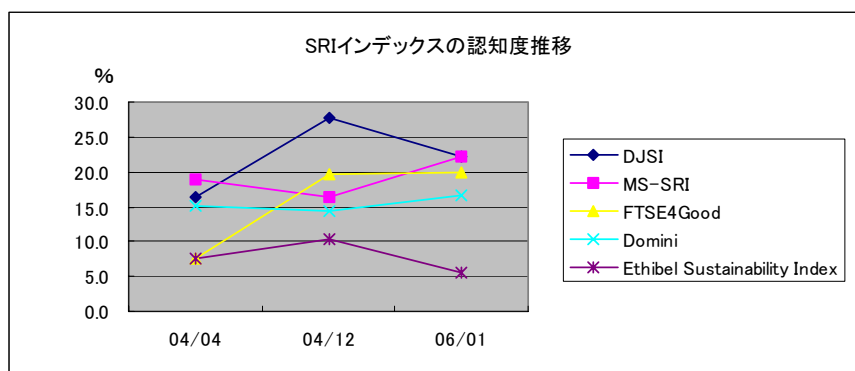
「ユニバース (投資銘柄選択)」が42.9% (第3回調査比-7.1ポイント)、「株式売買」が42.9% (同-7.1)、「その他」14.3% (同+14.3)となっている。

(N=7)



8 SRI インデックスの認知度(複数回答)

- ①全体的に認知度が向上している。全体でトップは「DJSI」22.2% (第3回調査比+5.7ポイント)と「MS-SRI」22.2% (同+3.2)、3位は「FTSE4Good」20.0% (同+12.4)、続いて「Domini」16.7% (同+1.5)、「Ethibel Sustainability Index」5.6% (同-2.0)の順。
- ②職種別の認知度トップは、ファンドマネージャーが「DJSI」「FTSE4Good」40.0%、セルサイドアナリストが「MS-SRI」20.0%、バイサイドアナリストは「DJSI」「MS-SRI」20.0%となった。



9 注目している SRI インデックス(複数回答)

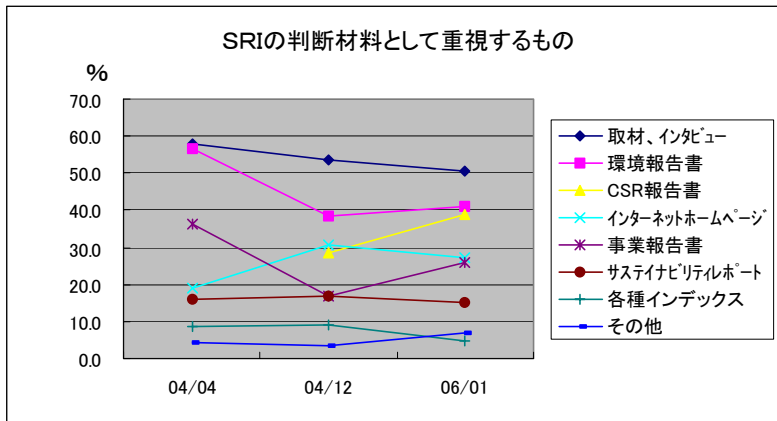
- ①全体で「わからない」が84.0%と圧倒的に多い(第3回調査比-0.8ポイント)。注目しているインデックスは、「MS-SRI」9.3%(同-1.3)の他は全て5%未満となっている。

10 インデックスの構成銘柄の認知度

- ①全体で「知らない」が81.9%(第3回調査比-0.8ポイント)と圧倒的に多い。「知っている」16.0%(同±0)と認知度は横ばい。
- ②インデックスへの認知度は向上しているが、その構成銘柄についてはこれからである。

11 SRI の判断材料として重視するもの(複数回答)

- ①全体では、1位「取材、インタビュー」が 50.6% (第 3 回調査比-7.4 ポイント)、2 位「環境報告書」が 41.2% (同-15.3)、「CSR 報告書」38.8% (同+10.4)、「インターネットホームページ」27.1% (同+8.3)、「事業報告書」25.9% (同-10.3)、「サステナビリティレポート」15.3% (同-0.6)、「各種インデックス」4.7% (同-4.0) の順となっている。その中でも「CSR 報告書」「インターネットホームページ」「事業報告書」の存在感が高まっている。
- ②その他の判断材料として「アニュアルレポート(外資系ファンドマネージャー)」、「企業発信の IR ニュース(日系バイサイドアナリスト、電機)とのコメントがあった。



12 日本で SRI が普及するかどうかについて質問

- ①全体では、「はい(普及する)」が 63.8% (第 3 回調査比+3.3 ポイント)と若干増加、「いいえ(普及しない)」が 30.9% (同-1.2)、「未回答」5.3% (同-2.1)となった。セルサイドは「普及する」が、57.1% (同-0.8)、バイサイドは 70.3% (同+9.2)が「普及する」と回答している。運用の現場に近いバイサイドの方が、SRIの普及について積極的な見方をしている。
- ②「はい(普及する)」の回答の中で、「時間がかかる」、「徐々に普及する」とのコメントが多いが、「各企業とも取り込んでいる事項」、「環境偏重型からステークホルダー(株主、債権者、顧客、地域社会)重視型に移行」との指摘もあった。
- ③「いいえ(普及しない)」との回答には、「量化が困難」、「取り組みが利益にと直結しにくい」、「責任能力があっても成長性や収益性に秀でた企業であるとは限らない」などのコメントが多いが、「結果として SRI 重視の企業が選択されるケースが多いのでは」とのコメントもあった。

